

所在地：福岡県豊前市 選定年月日：平成24年9月19日 面積：42.4 ha 選定基準：二(一)(一)(八))

(1) 概要

求菩提の農村景観は、周防灘(すおうなだ)に注ぐ河川沿いの狭隘な谷間に共通して営まれた農耕・居住の土地利用の在り方を示し、この地域の里に住む人々と山との関係を典型的に表す文化的景観の事例です。

天台修験の聖地であった求菩提山(標782m)の山中の行場をはじめ、修験者の生活の基盤となった山麓の村落・農地の姿を描いた18世紀後半の『豊前(ほうしゅう)(州)求菩提山絵図』とも照合できる点で貴重です。求菩提山の堂舎群は失われて遺跡となりましたが、岩峰及び岩窟群の位置・形姿は往時と変わらずに残され、山麓の鳥井畑(とりいはた)の村落及び棚田・茶畑などの農地も基本的な骨格・構造がほぼ変わることなく現在に継承されています。

極めて精巧な給排水網の下に野面積みの石積みにより区画された棚田の区域には、「ツチ小屋」と呼ばれる石積み擁壁から成る農作業用の小屋も点在し、修験者が伝えた石積みの技術の名残を示す独特の農地景観が見られます。また、豊前修験道最大の祭礼である松会行事のお田植祭や、村落には季節の節目を成す伝統行事も伝えられています。

このように、求菩提の農村景観は、近世に成立し、近現代にかけて、緩やかに進化を遂げたこの地方の土地利用の基本的な骨格・構造を伝えています。



全景



岩岳川沿いに展開する棚田



ツチ小屋



井堰と水路

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：８件
- ・ 国指定等文化財：求菩提山(史跡)、豊前神楽(無形民俗文化財)
- ・ 景観重要建造物：３件、景観重要公共施設：７件

（３）選定による効果

過疎化が進む地域にあって、選定によってその価値を深めることができ様々な取り組みが進められています。

その一つに選定範囲の中央を貫流する岩岳川での河川公園の整備があります。耶馬日田英彦山国定公園に含まれる犬が岳（標高1,130m）に源流を持ちヤマメなどが生息する清流は、多くの生命の源です。ここに整備された河川公園は、夏季には多くの来訪者で賑わっています。

また、古民家を活用した豊前市史跡ガイドボランティアの会による来訪者へのガイドや、地域グループによる地域活性化の取り組みなども始まっています。



多くの利用者と賑わう河川公園



古民家（旧井手上邸）でのガイド

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 求菩提地区便香的景観調査報告書（平成20年3月、豊前市）
- ・ 求菩提地区文化的景観保存計画（平成21年3月、豊前市）
- ・ 求菩提の農村景観整備活用計画（令和5年3月、豊前市）
- ・ ホームページ

<https://www.city.buzen.lg.jp/kanko/miru/index.html>

（５）活用事例

事例40-01 ①

地域の農業振興を目指した、ツチ小屋や用水路の整備

文化庁補助金

●行政による取り組み

求菩提の農村景観を構成する「ツチ小屋」は15棟が特定されており、本地域を特徴づける石垣積みの棚田で農業を行う上で重要な役割を担います。近代までは農地に撒く肥を保管する施設として使用されたと考えられ、広大な棚田で効率的に農業を営むために考案されたと考えられます。復元整備された「ツチ小屋」は農業資材の保管施設として活用されています。

また、網の目のように張り巡らされた水路は、豊富な岩岳川の水を棚田の隅々にまで行き渡らせます。しかし、伝統的な工法で構築された水路は経年劣化により水漏れが著しいため現代的な工法で補修を行い、農業の振興に役立っています。

これに加えて、「求菩提の農村景観」の本質的な価値を地域や来訪者に理解してもらうための方策としてパンフレットを作成し、視覚的にその価値がわかるよう周知に努めています。

ツチ小屋所有者の声

石垣積みの棚田での農作業は斜面が多いことで資材を運搬するのに労力がいるますが、こうした施設を整備できたことでその軽減につながり、農作業の効率化が図られました。



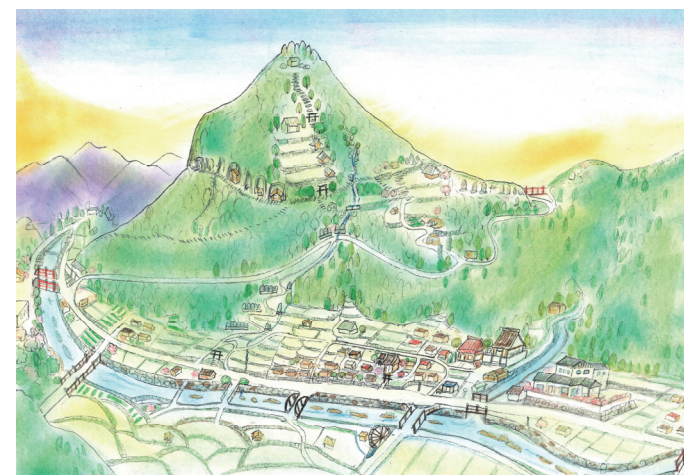
復元整備前の「ツチ小屋」。崩壊が進み利用できない



復元整備後は小屋の空間も広がり利便性が増した



無収縮モルタルによる水路の補修



パンフレットのイラストマップ

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例40-01 ②

地域住民との協働による、くぼて里山コンサートなどの開催を通して賑わいを創出する

●行政と住民等の協働による取り組み

求菩提の農村景観が所在するエリアは「耶馬日田英彦山国定公園」の指定範囲で、豊かな自然が残されています。こうした自然環境は都市住民にとっては癒しのスポットとして人気があり、年間多くの来訪者があります。

そうした人々にリピーターとして訪れていただくために地域と行政が協働で様々なイベントを企画しており「くぼて里山コンサート」もその一つです。コンサートは住民による実行委員会が主催で、豊前市からの補助金が充てられています。内容はクラシックを中心としたもので、新緑の求菩提に爽やかな音色が響き渡ります。

また求菩提資料館では、毎年春に企画展としておひなまつりを開催し、周辺施設でも協賛展示などを連携して行っています。こうした取り組みを通じて地域と行政が一体となって「求菩提の農村景観」の活用に取り組んでいます。

地元の活性化協議会会員の声

素晴らしい自然が残された求菩提地区をこれからも大切にし、先人から受け継いだ農村景観を未来につなげるため行政とともに取り組んでゆきたいです。



屋外を会場とする「くぼて里山コンサート」



多くの都市住民が訪れる



地域の共催イベント（シャクナゲ祭り）



毎年春に開催する企画展「おひなまつり」

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり
・